

大使からの活動報告(2015年3月)

<国費留学生壮行レセプション開催他>

2015年3月27日
在グアテマラ日本大使
川原 英一

◆グアテマラにおける日本人研究者によるウィルス感染症(チクングニア熱)調査



タイ・バンコクにあるマヒドン・大阪感染症研究センターから岡林 環先生とモラレス先生が当大使館を来訪されました。モラレス先生は、わが国文部科学省の元国費留学生(鹿児島大)の方です。昨年、グアテマラほか中米でもチクングニア熱の患者が多数発生したようです。

デング熱と同じくウィルス感染するチクングニア熱に対する迅速な診断キットを開発中であること、現在の診断キットはあまり正確な結果が出ないこと、日本の製薬会社の協力を仰ぎ、15分程度で診断できるパッチの開発を無料で提供してもらっていることなど、興味深くお話をうかがいました。モラレス先生の出身地であるサカパ県での現地調査を行う予定です。

中米には、もともとなかったチクングニア熱がアフリカ・アジアから渡り、今後、流行する可能性も排除できないことから、日本が中米でのチクングニア熱に関する先駆的な取り組みを今後実施して頂くことは、大変に有り難いことと思います。

◆当国算数教育分野で活躍された河澄教育専門家が帰国

この活動報告でこれまで御紹介しています河澄 JICA 専門家が、今年3月上旬で予定された2年間の活動を終えて、帰国されます。帰国に先立って行われた教育省における同専門家による活動についての講演をお聞きする機会がありました。同講演には、デル・アギラ教育大臣もご出席をされて、河澄専門家の当国での活躍に対しての深い感謝の言葉を述べておられました。



河澄専門家は、当初、協力隊員として、その後、専門家として、10年以上前からグアテマラの子供の算数能力向上プロジェクトに関わって来られました。昨年、グアテマラ教育省が、同専門家の長年の当国算数教育向上に対する貢献に対し、教育功労者として顕彰しています。同専門家の活躍があり、日本の協力で作成されたテキスト及び教員指導書が当国の公立小学校で

2007年から使用されています。これからも日本によるこの分野での協力が大いに期待されています。

■日本人学校卒業式

3月7日(土)、日本人学校小学部の卒業式があり、出席致しました。卒業証書を授与された



卒業生達は、日本人学校での楽しかった行事や思い出、さらにこれまでお世話になった先生方への感謝の言葉を、答辞の中で語っていました。当方



からは、将来なりたいこと、したいことへの思いを忘れず、そのために惜しみない努力をすることが大切ではないかと来賓挨拶の中で申し上げました。

◆当地で活躍中の日本商社駐在員の交代

これまで当地でコーヒーの精製輸出事業会社を運営しておられた伊藤忠出向者の方に御異動があり、新任の方にお会いする機会がありました。赴任された井上さん(下写真:中央の方)は、伊藤忠の食糧部門で長く御勤務をされ、在外勤務が長いこと、また、当国の質の高い食品の輸出努力により、日本国内で高い評価を得ておられると伺いました。当方より、日本と当国との関係が密なことを当国のより多くの方に知って頂けるよう努めたい、5月25-26日には、当国で日本と中米諸国との第2回ビジネス・フォーラムが予定されているなどのお話を致しました。



◆ファレス警察署長への感謝状贈呈

2月10日、長年にわたり、当館がお世話になっている地域管轄警察のファレス署長(右写真)に対して、当方から感謝状の贈呈を行いました。当方の感謝状に対して、同署長は大いに感激をされていました。



◆帰国協力隊員との懇談

3月12日、2年のボランティア活動を終えて帰国予定の2名の協力隊員と懇談の機会がありました。



当国西部県であるケッアルテナンゴ県の教員養成学校で小学校算数教育指導をされた川原翼隊員(左写真:左端の方)、同じ西部県であるトニカパン県で現地 NGO と共に環境教育をされていた松井恵子隊員(同写真、中央の方)です。川原隊員は、日本が協力して作成した公立小学校の算数教科書を使って、教員養成課程の生徒達の指導をされ、

養成課程の生徒達の算数への理解を著しく向上させる結果が得られたこと、本年から教員養成の制度が変わり、従来の3年間の養成課程から、これから5年間の期間となったことで、教員養成課程への入学者が減少したこと、他方、今後も教員養成課程へ日本から協力隊員を派遣することが極めて効果のあることなど伺いました。

同隊員は、神奈川県教員を5年ほどされて、現役のまま、協力隊員として当国で活躍をされました。松井隊員は、海拔約3千メートルの高地で、現地中学生とともにゴミ問題に取り組んでおり、NGOが運営する資源ゴミのリサイクル施設が近くにあり、子供達や地域の方々に空き缶リサイクルを奨励し、世界の様々な環境問題について、中学生達の理解を深められるようビジュアルな資料を作成されていたと伺いました。また、お二人ともグアテマラがとても好きになったとの感想を述べておられたので、その理由をお聞きしたところ、グアテマラ人のおおらかで明るい性格や日頃から家族との時間を大切に、民族性豊かな生活習慣が大変に気に入りましたとお話でした。日本に帰国されてからのお二人の益々のご活躍をお祈りします。

◆バチカン大使公邸での法王誕生2周年レセプション

3月12日は、フランシスコ法王が誕生して2年の節目を祝うレセプションがバチカン大使公邸で行われました。当国の外務次官、各国大使、当国宗教関係者、民間人などでレセプション会場は大変に賑わっておりました。クリスチャンの国民が圧倒的に多いこの国で、バチカンは特別な存在であることが改めて感じられました。



◆総務省・地デジTV放送推進チームのご来訪

3月中旬、既に日本・ブラジル方式の地デジTV放送システムの導入を決めているグアテマラ・ホンジュラス等への協力を推進中の総務省関係者(団長:長尾課長補佐:写真左端から



3人目の方)らが、当国に御出張頂き、当国通信監督庁(SIT)との同方式TV放送実施に向けた協議、多数の当国放送事業者及び防災機関関係者を対象としたデジタル放送と防災システムに関するプレゼン実施などについてお話を伺う機会がありました。当方からは、地デジ放送開始に向けて、今後共、迅速に協力・準備作業が進むよう、さらなる御支援をお願い申し上げます。

◆マリアノ・ガルベス大学訪問

3月17日、アルバロ・トーレ学長(写真右側の方)、ローサ・サンティソ副学長と懇談する機会がありました。その後、医学部生理学教室(左下写真)、歯学部ラボ(真ん中下写真)、工学部ラボ、最新技術革新センターなどを訪問しました。本部キャンパスだけで、2.2万人の学生が学んでおり、全国各県にも大学キャンパスがあり、学生総数は、約8万5千人と私立大学では最大規模です。また、大学創立今年50周年を迎えると同いましたので、当方からお祝いを申し上げました。学長を20年間続けてこられたトーレ学長に大学の使命は何かとおたずねしたところ、「変革(change)」すること、特に、コミュニティレベル・地方から、生活・社会を変えていくことが重要であるとのお話があり、そのため、教育が重要であり、より多くの人々が学べるよう、インター



ネットなどテクノロジーを利用した教育を推進中との答えがありました。

◆医療機器販売日系企業の開所式



3月20日、市内で医療機器日系販売企業セイジロー・ヤザワ・イワイ(ヤザワ・ミツル社長:左写真左端から二人目の方)のグアテマラ事務所開所式がありました。当国から、ピ



エルマン外務次官(経済・投資担当:左写真の左端の方)も御出席され、共にお祝い申し上げました。同社は87年前にベネズエラで創設され、その後、中米、マイアミなどに販売拠点を拡大しています。顧客へのアフターサービスを重視していることが拠点拡大の背景にあると思います。

◆国費留学生壮行レセプション開催



3月26日夜、4月から日本の大学等に留学予定の当国の若者6名のための送り出しレセプションを公邸で行いました。卒業生のいた大学副学長、恩師、元国費留学生の方々、文部科学省国費留学生の当国内での選考手続きを御支援頂いた政府関係者、地元主要プレスの方々にお越し頂きました。当方から、今回6名の国費留学生を日本へ送り出すので、これまで日本に派遣された留学生86名と併せて、総数92名が日本の国費留学制度を利用さ



れていること、元国費留学生の方は、留学終了後、各方面で御活躍されていること、最近、タイの感染症センターで御活躍されている元国費留学生の方が、アジアで流行していた感染症が中米でも昨年流行したことから、早期診断のための調査を目的で、最近、当国に来られた例があったが、元留学生の活動範囲が当国以外に世界にも広がっていることをお話ししました。

■草の根無償・体操競技機材の引き渡し式



3月25日、市内青少年スポーツ公園内体育館で青少年の体操競技に不可欠な機材及び子ども達の遠征など移動手段となるミニバスの引き渡し式及び地元の子どもの達による床運動・平均台などの技披露が行われました。

この引渡式には、ペサロッシ文化スポーツ大臣(左のテープカット写真で中央の方)、同副大臣(同じ写真の右端からお二人



目)、当国オリンピック委員会関係者の方々に御参加頂きました。6歳くらいの小さな子どもから中学生までと、昨年の中米地域スポーツ大会の平均台



チャンピオン選手が参加して、妙技を御披露してくれました。当方挨拶の中で、当国でのスポーツ指導の協力隊員の活躍や2020年の東京夏期五輪でグアテマラ選手の活躍を期待していますと申し上げました。引渡し式については、当地主要紙でも報じられていました。(了)